

箴

昭和改訂版
内八

特257

441

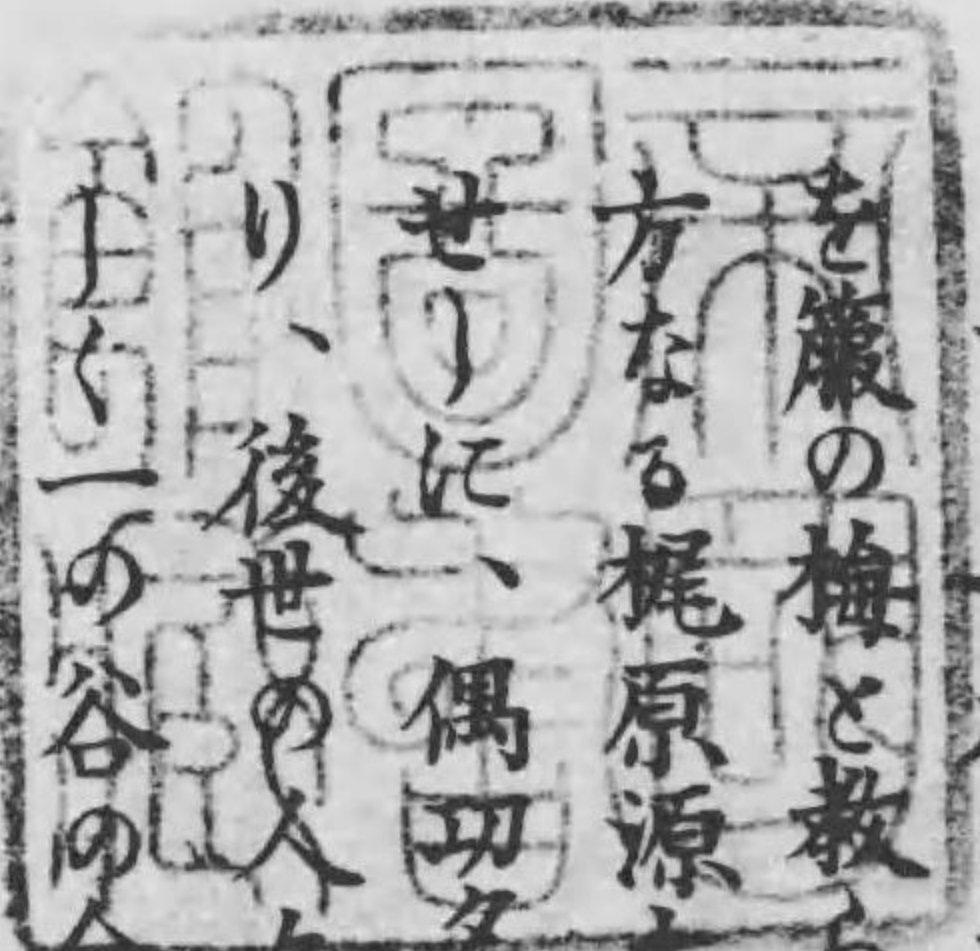


始



簾

(梗概) 西國方より出でたる僧、都一見を志し、攝津の國生田川の邊り
 よて、一木の梅の花盛りなるを見、折しも里人と覺しき男に、梅の名
 を簾の梅と教られ、其の謂を問ふに、昔源平此所にて戦ひし時、源氏
 方なる梶原源太景季、色異なれる梅花の一枝を取りて簾に挿し、
 せしに、偶功名人に優れしかば、景季この花を八幡の神木と敬
 り、後世の人々名將の古跡の花なれば斯くは名附けたるなり
 玉の谷の合戦を物語り、我はその景季が幽霊なりとて姿を消しぬ、
 よりて僧は夜もすがら、跡を弔ふ處に、景季簾に梅花を挿したる若武
 者の姿を現し、此生田よて功名せし時の戦況を物語りて消失せぬ。



此浦生田の河は流るるは流るる

わさし 急は程よき早津の國生田河といふ也

中は又是成梅の本立余乃本よまをくれ

ちさうつくしむは程よきよまを眺を也と

思ひはむよては上く家と一の也乃

生田河く流きてを也き月日うか

上サレ 飛花落葉の無常は又常任不替此榮

をを色一香乃をむ志やうの無世中

乃のまをいよをてめんくはえむ

しやう此観念程もつておりがしある

きぬあみのまよやあ歩 人間あり乃精

あまのちちれ肉はあはまて歩 圖浮お

海なるあねのくせは死の海なきを
 生田の河をらく世まで夢れちまふ
 まあらんよしもと身北向後定め
 ありとも寝ふも夢のたぐちよ海らん
 直路
 ころおは成人よる中へき軍の
 けはふる木立余乃木ふまぐれらうら

くし皇山程ふ馳入て休むひはげ梅よ名
 のはやらむさん惟是丁持後梅と
 ちてほまきたま梅まてはくあら面
 白や藤乃梅といいつの世より此名木ふ
 ては我もや名木とち奇人の海もと
 飛べたるを丁中へなれ是は只私よ

付くる^イ矣名^ウよてい^{わき} 雖^タひ私^ニよ付^ルるま

と侍^シ矣名^ナなりた^マま^スう^ウ程^トも^キら^ハ海

不^レし^レん^レ服^ハ此^ノ梅^ノ謂^ハ妻^ハ以^テ物^ヲ信^スゆ^ハ

想^シて^ハ生^ケ田^ノの森^ハ平^家十^万余^騎乃

追^ハ手^成し^ニ梳^束平^三系^時源^太景

重^一の本^戸切^て落^しを^上捕^言る^名目^を

撃^つに^およ^ぶ系^季何^と思^ひん^ん此^梅也

乃^枝を^手物^て籠^よさ^にけ^花笠^中と

故^て功^名い^ち志^ろく^名を^あま^しり

し^にあ^つて^系季^抑て^けむ^を礼^し 則^ラ

八^幡教^我の^神本^と教^せし^{より}以^来

名^將乃^古の^花な^れば^とて^籠の^梅也

以後

四

余騎^ト津の國一の谷^トみぞ^トおと^トり^トる^ト侍

^{サシ}上^トひん^トが^トー^ト生田の表^ト病^トを^ト一^ト乃^ト谷^トを^ト跟^トて

其^ト間^ト二^ト里^トが^ト程^トの^ト海^トと^トり^ト 浦^トと^トり^トる^ト

数^ト子^ト被^トの^ト舟^トを^ト浮^ト入^ト陸^トよ^ト赤^ト旗^トい^トくら

と^ト立^ト並^トべ^トま^ト風^トよ^トる^トび^トき^ト天^ト小^ト輪^トる^トみ^ト指

物^ト火^ト雲^トを^トか^トへ^トう^トと^トか^トん^ト入^トり^トり 想^トど^トて

は^ト城^ト北^トあ^トの^ト海^ト後^トの^ト山^トた^トを^ト須^ト广^ト右^トを

め^トる^トの^トと^トり^トか^トく^トよ^トる^ト行^トう^トお^ト舟^トの^トあ^トま^トと

祿^ト乃^ト子^ト多^トと^トな^トり^トと^トあり^ト 時^トも^ト一^ト

月^ト上^ト旬^トの^トを^ト北^ト半^トな^トれ^トば^ト決^トて^ト北^トを^ト本^トの

桜^トも^トま^トま^トと^ト咲^トく^トぬ^ト侍^ト落^ト香^トの^トさ^トく^トゆ^トる^ト波

爰^ト許^トお^ト生^ト田^ト乃^トお^トの^トづ^トら^トと^トを^トえ^トて^トう^ト

ヤラ

サカリ

ト

船はさみづらういまのときも母もかくらん
 ちや父業の梅乃も月よ成行仮杖一
 我の宿りも白雪
 の花乃あると思ふは下脚を待めん
 花のたもと思ふは母らんなる人も
 らむ 今は何をうばむもききあはは

世に母親乃 泣とくきんと夕草の 其
 糸季が出買ある里 清身あ生乃縁
 あ里て一樹の陰乃花れ母よ常宿梅
 忠来れ中子宿らせ給へ家ハ又世を管
 乃ねくらハは花よとて失よりけむよ
 とくそ失よる海 鳥羽玉乃よの

今ハ何をうつらむとさ^カ是ハ深き葉季^カ多
生此縁の一栂乃陰よ^カ夢中の對面^カ向
顔^カを^カあ^カら^カし^カ。涉身^カ苦^カさ^カ人^カあ^カれ^カば^カ法^カ味^カを
得んと^カ魂^カを^カ雲^カの^カ魂^カよ^カう^カつ^カら^カり^カと
り^カ。行^カと^カひ^カ路^カ入^カら^カむ^カと^カま^カれ^カた^カ。や^カ首^カ根^カ
め^カ。や^カ又^カ海^カ程^カの^カ真^カ意^カの^カ敵^カ乃^カ妻^カ。阿^カま^カ

見^カ路^カ入^カや^カ法^カ香^カ。実^カの^カ見^カま^カお^カそ^カろ
し^カや^カ海^カの^カ面^カと^カ浮^カら^カり^カて^カ。雲^カよ^カ思^カふ^カそ^カ
地^カよ^カ動^カく^カ。山^カも^カ震^カ動^カ。海^カも^カあり^カ
雲^カ火^カも^カ丸^カき^カ。若^カ風^カ乃^カ。赤^カう^カえん^カ
の^カ枝^カ枝^カな^カび^カら^カく^カて^カ。岡^カ浮^カよ^カ見^カへ^カ
生^カ田^カ河^カ乃^カ波^カを^カこ^カそ^カ水^カを^カか^カへ^カ。山^カ里^カ海^カ

146

ト

川も皆無難なればとぬぬチマタあついで
はましやヤラ暗く心を寝てくれヤラ
所は生田なりなりヤラ時も昔のまれば梅乃
花感なりヤラ一枝手折て籠よさせヤラ本よ
里傳びヤラびしるあ武者よあひ何ふあ本
の花うづヤラかられば籠の花も涙をと我

きたらんはしかけんとヤラのんれば花も梅
もあかつく面やヤラ敵乃あそを見
て天晴敵よヤラのうはるとしてし騎が中ふ
敵もあらるればヤラ甲もあはれさるく
日ヤラ大わいの乃嬰とぬて 良策の騎は後
を合せ 向ふ者もバ 陣も歩月又め

ぐりあへいさるま切^ヤ手かくなは十文
 字^ヤ新^ヤ秘^ヤ行^ヤの秘^ヤ術^ヤをつくまとい
 法^ヤるうちよ^ヤ及^ヤたあ^ヤく^ヤ志^ヤく^ヤと^ヤ東^ヤも
 明^ヤ事^ヤふ^ヤ是^ヤを^ヤ成^ヤゆ^ヤ旅^ヤ人^ヤふ^ヤ味^ヤ中^ヤて^ヤ花^ヤの^ヤ根
 に^ヤ多^ヤる^ヤ古^ヤ葉^ヤふ^ヤか^ヤる^ヤ及^ヤ乃^ヤ多^ヤる^ヤ古^ヤ葉^ヤに
 由^ヤる^ヤな^ヤ里^ヤ能^ヤこと^ヤひ^ヤて^ヤた^ヤむ^ヤ強^ヤく

十一

昭和八年七月一日納本 五日印刷
昭和八年七月五日發行

定價金五拾錢



東京市下谷區上根岸町八十二番地
 著作者 實生 新
 發行兼印刷者 江島 伊兵衛
 發行所 下掛實生流談本刊行會

終